

SUN ななと。

地域で育むこどもの未来
学校と地域ボランティアの
架け橋に松が丘小学校区
地域コーディネーター中谷 真奈美^{さん}Manami Nakatani^{かわよけ} 川除

「こどもたちが『こんにちは!』って元気に声をかけてくれるのがうれしくて」。そう笑顔で話す中谷さんは、松が丘小学校区の「地域コーディネーター」として活動している。学校の要望を受け、地域の学校支援ボランティア(※)になが、学校と地域の「橋渡し役」だ。きっかけは、PTA副会長を務めていた時のこと。遠足の引率や見守り活動などで保護者に協力を呼びかける中、「地域の人たちと一緒に、こどもたちを支えられないか」と考えるようになった。そんな時、学校支援ボランティアの制度を知り、登録。活動の傍ら、地域の人たちに「得意なことを生かして一緒に活動しませんか」と声を掛け、学校と地域をつなぐ活動を始めた。

「最初は活動を知ってもらうことに苦労した」と振り返る。それでも地道な声掛けが実を結び、想いに共感する人が少しずつ集まってきた。現在では、遠足の引率や習字の授業補助、運動会で使うグッズの作成には20人以上が参加するほか、学校のキャラクター「よつぱっくりちゃん(写真右)」の人形を手作りして各教室に飾るなど、一人一人の「得意」を生かした活動の輪が広がっている。

中でも印象に残っているのは、学校横の池を清掃したこと。地域コーディネーターとして培った人

脈を生かして呼びかけたところ、世代を超えた数十人が集まった。泥だらけになってやり遂げた一日は、今も中谷さんの心に残っている。「活動後に食べたカレーの味は忘れられません」と笑った。

こどもたちへのアンケートでは、「将来、地域のために役に立ちたい」と答えた同校の児童が70%以上となり、全国平均の約30%を大きく上回った。「地域の大人と触れ合っていて感じるのでは」と、中谷さんはうれしそうに話す。

「今後は、この想いを引き継ぎ、新しい人にも参加してもらいたい」と中谷さん。強制せず、一人一人が「好きなこと」「得意なこと」を生かし、楽しみながらこどもたちを支える。中谷さんを中心に広がる地域の輪が、松が丘小学校のこどもたちの未来を支えている。

「こどもたちのために何かしたい」というボランティアの人の想いを、学校へとつないでくれるのが中谷さんです。「何か困ったことはないですか?」とフラッと学校にも立ち寄ってくれ、本当に頼もしい存在です。



■松が丘小学校
学校長
梶 京子^{きょうこ}さん

※学校支援ボランティアとは、地域住民や保護者、学生などが自分の知識や特技を生かして、学校の教育活動や環境整備をサポートする活動やその人のこと